



国鉄北陸

国鉄労働組合 北陸地方本部

(NTT)076-231-1506(FAX)076-231-1114(JR)065-2393

(Mail)nru-hk@m2.spacelan.ne.jp

発行人 藤野 能章
編集人 山田 輝男

2023 団結旗開きと学習会を開催

国労北陸地方本部は、1月7日、石川県平和と労働会館において団結旗開きを開催し、運動の前進と組織の発展を誓いあいました。5名の来賓を含め、役員中心に全体で25名が参加しました。

主催者を代表して、藤野委員長が「実質賃金は前年比でマイナス3.8%と悪化の一途をたどっている。このような状況であるにも関わらず日本政府は、ロシアのウクライナ侵略や中国、北朝鮮を理由として、憲法と立憲主義の破壊、平和の破壊、生活と暮らしの破壊の道を突き進んでいる。また、JR西日本管内においては11月以降、草津構内での待避不良、奈良線での信号冒進など、安全を脅かし重大事故につながるかねない事象が相次いでいる。特に草津構内での待避不良は、関係者の中に区長や室長がおり、区長が指導する作業変更によつて発生し、あわや触車を辛うじて逃れた状況でした。



安全を切り捨てて構造改革に突っ走るJR西日本の経営姿勢は改めるべきである。今年の春闘は、労働者の大幅賃上げはもとより、戦争か平和か、民主主義破壊か憲法擁護か、暮らしの破壊か生活擁護かが大きく問われる春闘である。要求の多数派、組織の多数派を目標し奮闘しよう。」とあいさつしました。

また、西日本本部から大和執行委員が参加し「コロナにより物価は上がっている。春闘には地域を巻き込んだ闘争を。組織拡大は西日本本部定期大会より4名を拡大し、拡大の流れは続いている。今後もホームページの充実等を行い、組織拡大に向けて奮闘して行く」と若々しくあいさつしました。

最後は、藤野委員長の団結ガンバローを行い、旗開きは終了しました。



労働講座を開催

7日、金沢市の平和と労働会館において、国鉄労働会館北陸地区労働講座が開催されました。講師には、富山高専の教授である岡本勝則氏を招き、「地方交通が直面する課題と労働組合」と題して開催されました。

労働講座「地方交通が直面する課題と労働組合」

JR西日本は輸送密度2000人以下の路線を公表しましたが、各鉄道会社も赤字ローカル線の状況を抱え、国土交通省が「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」の提言を昨年7月に行い、「鉄道の特性」の再検討、「危機的なローカル線区」について、特定線区再構築に向けての協議の場の設置等について述べています。

国鉄改革実地後の輸送需要の動向や変化により、大量輸送機関としての特性が十分發揮出来ない状況が生じたとするJR西日本は、インバウンドの力も活用しながら、地域のニーズにより適した持続可能な新しい交通体系を積極的に地域と共に模索していくと今後に向けて発言しているが、コロナ禍で赤字に陥った後も、会社は株主配当を出し続けており、たよりには見えない。

今後地域公共交通計画を審議する場があれば、労働組合がその場のメンバーに参るよう努力してほしいと締め括りました。



「第139回 拡大地方委員会」

2月18日 13時
於：平和と労働会館 三階